

平成 23 年 5 月 9 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20530683

研究課題名（和文）戦後山形県における地域教育実践の展開過程に関する総合的調査研究

研究課題名（英文）The Study and Investigation of the teacher's practices in Postwar Yamagata prefecture

研究代表者 臼井 嘉一（USUI YOSHIKAZU）

国土館大学・文学部・教授

研究者番号：50151866

研究成果の概要（和文）：本研究は、第 1 に山形の生活綴方教育実践史の概括とその特質をまとめること、第 2 に山形の地域教育実践を特質づける東北の北方性教育運動の研究史を三つの視点（①作文教育、②学校教育、③国民教育）から整理すること、第 3 に 4 人の教師から東北の地域教育実践とその特質について聞き取り調査を実施すること、という三つの課題をふまえて実施した。

以上の三つの研究課題については、山形県の北村山郡・西村山郡における地域教育実践および生活綴方教育実践の調査研究と、それらの教育実践を支える東北地域の実践交流・実践研究の場となっている「東北民教研」研究集会の資料収集・聞き取り調査の研究がなされた。

研究成果の概要（英文）：Our study have three themes.

The 1st theme is to come to grips with fundamental problems of 'Seikatsu Tsuzurikata' Education in Yamagata prefecture.

The 2nd theme is to study of the Northern Educational Movement from the three points composition education, school education, nation education.

The 3rd theme is the interview with four teachers and the collection of Northern Educational Movement Data.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育方法、生活綴方、生活認識、地域教育実践

1. 研究開始当初の背景

教育問題の多様化・深刻化を受け、教育改革の趨勢が強まっている。教育問題と教育改革の理念のあいだに、実践主体としての教師の位置がある。教師の実践力の開発が、教育

改革のカギとなる。だが、現在、様々な制度的改革の進行が、教室や学校単位の実践を改革するまでの成果となっていない。教育行政改革が教育実践改革に至らないのである。ここに現下の最大の課題が存在する。トップダ

ウンの指示や啓蒙では、教師たちの内発的な実践創造は困難なのである。

一方、戦後日本の教育実践は、ユニークでかつ質的に高水準の成果を構築しているが、それは戦前の反省をふまえ、なおかつ戦前の創意的な伝統を継承・発展させ、個人や教育研究団体に学ぶ教師たちが、多様な教育実践の華を咲かせたところからくる。

世界的にも例のないこのような実践の高みは、なぜ可能となったのか。そのような実践を創造した教師たちは、どのような契機で成長していったのか。教育実践を支える教育学はどのような役割を果たしたのか。

また、実践の展開を通してどのような教育理論が形成されてきたのか。戦後教育実践を、このような視点から研究の光をあてることが、現下の課題である教育実践改革の前進に寄与するものとなる。本研究は、そのような問題関心から出発する。

2. 研究の目的

今日、困難を倍加した教育世界の実情に即した臨床的な研究が要請されている。その意味で、教育学研究は、教育実践の方向性や実践を支える理論を探求する課題を自覚すべきである。本研究は、そうした研究の一端を以下のかたちで担うことをめざす。すなわち、戦後、社会科を中心として、創造的な教育実践を展開した実践家たちの営為を追跡し、記録する。あわせて、実践家の資料を収集し、研究材として冊子化し公開する。これらのタスクは、資料の紛失や聞き取り対象の高齢化等のため、緊急な取り組みが要請されるものである。同時に、こうした実践の掘り起こし作業とともに、そのような実践の根底にある理論、およびその理論を生み出した教育学研究の系譜について探究する。

本研究において、特に留意したい点は、実践家たちの教育的営為を追跡し記録する際、このような実践において、戦後教育学研究や教育理論がどう関わり、どのように位置づいているのかに着目することである。さらに実践それ自身が戦後教育学研究や教育理論の形成に対していかなる位置と役割を果たしてきたのかについても留意する。

すなわち、戦後教育実践史の実践家たちの記録をつくりつつ、そこにおいて達成されている実践と戦後教育学研究や教育理論との関わりを検討し、いわば戦後教育史における

実践アプローチと理論アプローチのダイナミックな関連と相互浸透の過程を分析し検討することをその主要な目的として設定するものである。

本研究は、東北日本の中で、戦前北方性教育・生活綴方教育が継承され、戦後の地域教育実践に結実した典型地域として、山形県を取り上げる。例えば北村山郡・西村山郡地域においては、地域に根ざした創造的・個性的な実践を展開した教師たちの教育的営為を記録し、資料収集・整理し、研究資料として冊子化・公開する。まず、戦後山形県における地域教育実践の創造・展開過程を分析し、次いで、地域教育実践の典型的な展開過程のケーススタディ取り上げ、併せて、個別実践家の実践過程・発展過程の分析も行う。その過程で、地域教育実践の資料在庫・典型実践の収集・整理をする。

3. 研究の方法

山形県の北村山郡・西村山郡地域には、戦前の北方性教育運動・生活綴方教育運動を継承する「教科の思想」と「生活綴方」教育の実践が蓄積されている。

以上のような地方レベルで質の高い実践に取り組んできた教師たちの研究に光をあてることは、本研究のねらいでもある。そこで、山形県を中心に、東北各県の教育雑誌・研究資料・実践資料等を把握・整理し、また、国立政策研究所東館所蔵の地方資料を参照して、東北各県の在庫調査を行う。

本研究において、具体的には次のような課題と方法を設定し、研究の成果をまとめる。

戦後教育実践家のモノグラフ作成

新資料の発掘・収集・活用をふまえ、戦後の教育実践家に関する精緻なモノグラフを作成する。ここでは、同時に収集した一次資料を基に研究資料集を作成し公開する。

戦後教育実践の証言集作成

ここでは、教育実践の創造に積極的な役割を果たしてきた実践家への聞き取りを行う。

戦後教育実践・研究年表—東北民教研略年表作成

東北6県それぞれ順番に開催されてきた研究会における実践・研究テーマと実践・研究報告および教育学研究者の問題提起や講演テーマ等について整理し、年表として完成する。

なお戦後の北方性教育運動としての「東北民教研」とは、「東北地区民間教育研究団体合同研究集会」のことであるが、この初期においては「教育科学研究会東北地方大会」（第1回1952年～第6回1957年教育科学研究会東北地方大会）という名称で出発し、その名称を経由して、1958年に始まった第7回東北地区民間教育研究団体合同研究集会から現在に至るまでの（2011年開催予定の第60回大会まで）の研究運動を指す。

その研究運動の全体的経過と、そこにおける三つの分科会（「作文と教育分科会」「学校と教育分科会」「国民と教育分科会」）の研究テーマとそれにもとづく検討成果及びその課題についてもその概要の検証を進めてみた。

以上を踏まえた本研究プロジェクトが進めた研究作業は以下の通りである。

- (1) 研究論文の作成（田中武雄、白井嘉一、土屋直人）
- (2) 北方性教育運動及び「東北民教研」研究集会に関する資料収集とヒアリング（田中武雄、板橋孝幸、土屋直人）
- (3) 剣持清一及び土田茂範の「著作文献目録」年表作成（田中武雄、土屋直人）
- (4) 「東北民教研」研究集録収集と「東北民教研」年表作成（白井嘉一、板橋孝幸）

4. 研究成果

- (1) 研究論文
田中武雄「戦後山形県における『北方性教育運動』の継承」
白井嘉一「北方性教育運動と『教科の思想』—剣持清一のとらえ方の分析」
土屋直人「山形県児童文化研究会と土田茂範の『生活綴方』教育」
- (2) 聞き取り調査記録
鈴木輝男氏ヒアリング、②下山敏勝氏ヒアリング、③千葉努氏ヒアリング
- (3) 著作目録
剣持清一著作目録、②土田茂範著作目録
- (4) 東北民教研略年表（「作文と教育分科会」「学校と教育分科会」「国民と教育分科会」

等の研究経過の記録)

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

土屋直人、今、北方教育を振り返る意味、民主教育研究所年報（民主教育研究所編）、査読無、第10号、2010、80 105

白井嘉一、戦後日本の教育実践の全体像を捉える視点、学校教育研究（日本学校教育学会編）、査読無、24巻、2009、241-245

白井嘉一、教師教育における教育実践力形成に関する研究動向、教育方法（日本教育方法学会編）、査読無、38巻、2009、138-144

田中武雄、人間関係のつながりつつむぎ合いの上こそ文化は育つ、センター通信（みやぎ教育文化研究センター編）、査読無、55巻、2009、20-22

田中武雄、今、北方性教育に学ぶ、民主教育研究所だより（民主教育研究所編）、査読無、特別号、2009、51-54

土屋直人、1935年前後における北方教育運動の一断面—吉田農の一論稿から—、岩手大学文化論叢、査読無、第7・8輯、2009、113-144

板橋孝幸、昭和戦前期郷土教育におけるカリキュラム改造と村内教育体制構築の構想、社会科教育研究（日本社会科教育学会編）、査読有、第108号、2009、32-43

土屋直人、永井庄蔵の「憲法科を創設することの提案」を読む、岩手の歴史地理教育（歴史教育者協議会岩手支部編）、査読無、第8号、2008、92-103

〔学会発表〕（計 1 件）

白井嘉一、田中武雄、板橋孝幸、土屋直人、北方性教育運動と「生活綴方的教育方法」、日本教育方法学会、2010年10月9日、国土館大学

〔図書〕（計 4 件）

板橋孝幸、学術出版会、「昭和戦前期秋田県における郷土教育運動と地方教育会—

農村の小学校を重視した施策の転換に着目して一」、続・近代日本教育会史研究、2010年、407-432

臼井嘉一、日本標準、教育実践学と教育方法論、2010年、全200頁

臼井嘉一、学文社、開放制目的教員養成論の探究、2010年、全181頁

田中武雄、教育史料出版会、行為<プラクシス>としての教育・林竹二ののちにくるもの、2010年、全158頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

臼井 嘉一 (USUI YOSHIKAZU)
国士舘大学・文学部・教授
50151866 (H20-H21 研究分担者)

(2) 研究分担者

土屋 直人 (TSUCHIYA NAOTO)
岩手大学・教育学部・准教授
10318751

吉田 剛 (YOSHIDA TUYOSHI)
宮城教育大学・教育学研究科・准教授
10431610 (H20-H21)

(3) 連携研究者

板橋 孝幸 (ITABASHI TAKAYUKI)
福島大学・総合教育研究センター・
准教授 0044721

(4) 研究協力者

田中 武雄 (TANAKA TAKEO)
宮城教育大学・教育学部・名誉教授
30091531 (H20-H21 研究代表者)